
直島を訪れる訪日外国人旅行者の実態調査 ～ 瀬戸内国際芸術祭のインバウンドデータを読み解く ～

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 2 2



株式会社日本政策投資銀行
四国支店

目 次

目 次	2
はじめに（調査の目的）	3
1. インバウンドビッグデータについて	4
2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性	9
（1）旅行客数（総数）と日帰り客数、宿泊客数	10
（2）国地域別の旅行客数	11
（3）国地域別の宿泊客数及び宿泊比率	12
（4）国地域別の平均滞在日数	13
3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態	14
（1）入国空港	15
（2）出国空港	16
（3）出入国空港（マップ）	17
（4）直島以外の他訪問先【東アジア】	18
（5）直島以外の他訪問先【東南アジア】	19
（6）直島以外の他訪問先【欧米豪】	20
（7）直島を訪れる直前と直後の滞在地	21
（8）直島を訪れる直前と直後の滞在地（マップ）	22
4. 調査結果を踏まえて	24
～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、面的な拡がりによる周遊を促す～	
（参考）DBJ四国支店 インバウンド関連レポート	29

はじめに（調査の目的）

瀬戸内国際芸術祭（以下、「瀬戸芸」という）は、瀬戸内海の12の島と2つの港を舞台に、3年に一度開催される現代アートの祭典であり、現在コロナ禍としては初めての瀬戸芸2022が開催されている。

2010年に開催された第1回より、会場となる島の数や、参加アーティスト数、作品数は回を重ねる毎に増加し、来場者数も増加の一途を辿ってきたが、構想時よりそのテーマは一環して「海の復権」である。

すなわち、瀬戸芸の目的は、過疎化と高齢化が進み、活気と自信を失いつつあった島々に住むお年寄り達の元気と笑顔を取り戻すことであり、感性豊かなアーティストと協働した作品作りや、それを目的に訪れたお客さんとの交流を通して、島の活性化を実現してきた。

前回の瀬戸芸2019では、全来場者数に占める訪日外国人比率が2割を超え、瀬戸内に浮かぶこれら小さな島々に、日本中はもちろん世界中からこれだけ多くの人が訪れるという現実、改めて感嘆の気持ちが込み上げる。

会場となる12の島の中でも、最も来場者数が多く、瀬戸芸の中心的場所となっているのが、「現代アートの聖地」とも呼ばれる直島である。

（株）日本政策投資銀行（DBJ）四国支店が2021年7月に公表したレポート「海外富裕層の訪日旅行市場とwith/afterコロナの四国における可能性」においても、欧米豪の富裕層旅行の実態として、ゴールデンルート+直島の行程例を紹介している。

これまでに多くの媒体で直島が世界に向けて発信されたこともあり、その知名度は群を抜いて高く、「四国」は知らなくても「直島」は知っており、「日本に行くなら直島には必ず行きたい」と言う訪日外国人旅行者も多いと聞く。

かかる状況下、四国側の問題意識としては、直島が行程に含まれるとしても、本州側から直島のみを訪れて、四国に上陸することなく再び本州側から帰ってしまうことが多いのではないかという点であり、直島まで来た旅行者の足を、四国側へ呼び込めるようになることが、課題の一つであると言及してきた。

そこで今回、直島を訪れる訪日外国人旅行者が「どこから来て、どこに向かうのか？」や「どこを周遊しているのか？」といった疑問を明らかにするべく、前回の瀬戸芸2019の会期中に直島を訪れた訪日外国人旅行者のビッグデータを取得することとした。

本調査は、そのインバウンドビッグデータの分析結果をもとに、直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性や動態に迫るものである。

本調査の実施にあたっては、DBJグループとしてビッグデータ分析を手掛けるDBJデジタルソリューションズ（株）ビジネス戦略部の協力を得て実施している。

2022年10月には訪日外国人旅行者の受入が解禁され、高松空港のソウル線、台北線の運行再開も決定し、今後のインバウンド本格的再開に向けて期待が高まっている。

本調査によって直島を訪れる訪日外国人旅行者の実態が少しでも明らかとなり、瀬戸芸開催期間中に限らず、四国そして瀬戸内エリアの今後のインバウンド戦略の一助となれば幸いである。

DBJ四国支店は、今後も観光をはじめとする四国地域の課題解決に向けた情報発信を積極的に行って参りたい。

1. インバウンドビッグデータについて

1. インバウンドビッグデータについて

- 今回調査で入手したインバウンドビッグデータは、以下の2種類である。
 - ①ドコモのモバイル空間統計（R）（DMO）
 - ②ナビタイムジャパン インバウンドGPSデータ
- いずれのビッグデータも、エリアは直島町を対象とし、瀬戸内国際芸術祭2019の開催期間にあわせて集計期間を設定した。

■ 対象ビッグデータ

ドコモのモバイル空間統計（R）（DMO）：	携帯の基地局情報を基にしたビッグデータ 直島町に2時間以上滞在した訪日外国人を対象
-----------------------	--

ナビタイムジャパン インバウンドGPSデータ：	GPSの経緯度情報を基にしたビッグデータ 直島町に30分以上滞在した訪日外国人を対象
-------------------------	---

■ 対象エリア

いずれのデータも市町村単位でのエリア選定であり、直島町のみを対象としている。



出典：ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

1. インバウンドビッグデータについて

■ 対象期間

瀬戸内国際芸術祭2019の開催期間にあわせ、各データの集計期間を設定している。

□ 瀬戸内国際芸術祭2019 会期

瀬戸内国際芸術祭 第四回（2019年）	
春【ふれあう春】	2019年4月26日（金） – 5月26日（日） 31日間
夏【あつまる夏】	2019年7月19日（金） – 8月25日（日） 38日間
秋【ひろがる秋】	2019年9月28日（土） – 11月4日（月） 38日間

□ モバイル空間統計（R）（DMO）

期間	2019年3月1日から2020年2月29日
集計単位	3か月毎に集計 春： 3月から5月 夏： 6月から8月 秋： 9月から11月 冬： 12月から2月

※対象期間を1年間とし、瀬戸内国際芸術祭2019の開催期間中と開催期間外が比較できるよう、会期外である冬期についても集計している。

□ ナビタイムジャパン インバウンドGPSデータ

期間	2019年の中から以下3か月分を抽出 5月、8月、10月
集計単位	サンプル数の影響により3か月合計で集計 また、国地域別の分離も不可

1. インバウンドビッグデータについて

■ ビッグデータ別の特徴

□ ドコモのモバイル空間統計（R）

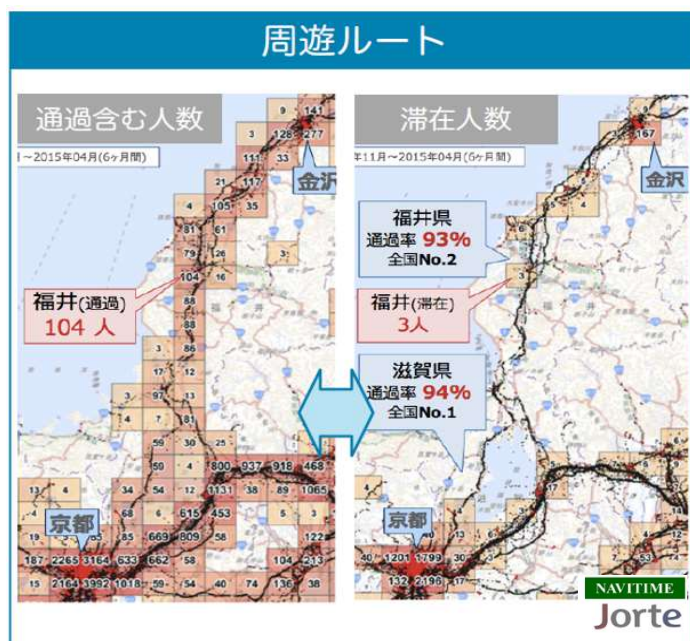
- ✓ サンプルサイズが大きく、統計データの精度は高い。
- ✓ 携帯の基地局情報を基にしており、500m（国内）および1km（訪日外国人）メッシュでの集計が基本となる。
- ✓ 滞在人口は、拡大推計である。



出典：(株)ドコモ・インサイトマーケティング

□ ナビタイムジャパン インバウンドGPSデータ

- ✓ 訪日外国人向けアプリ「Japan Travel」のユーザー20万人/年のGPSデータ。
- ✓ GPSの経緯度情報を基にしており、細かな粒度で滞在や周遊を把握することが可能。
- ✓ 滞在人口は、拡大推計を用いず実測となる。

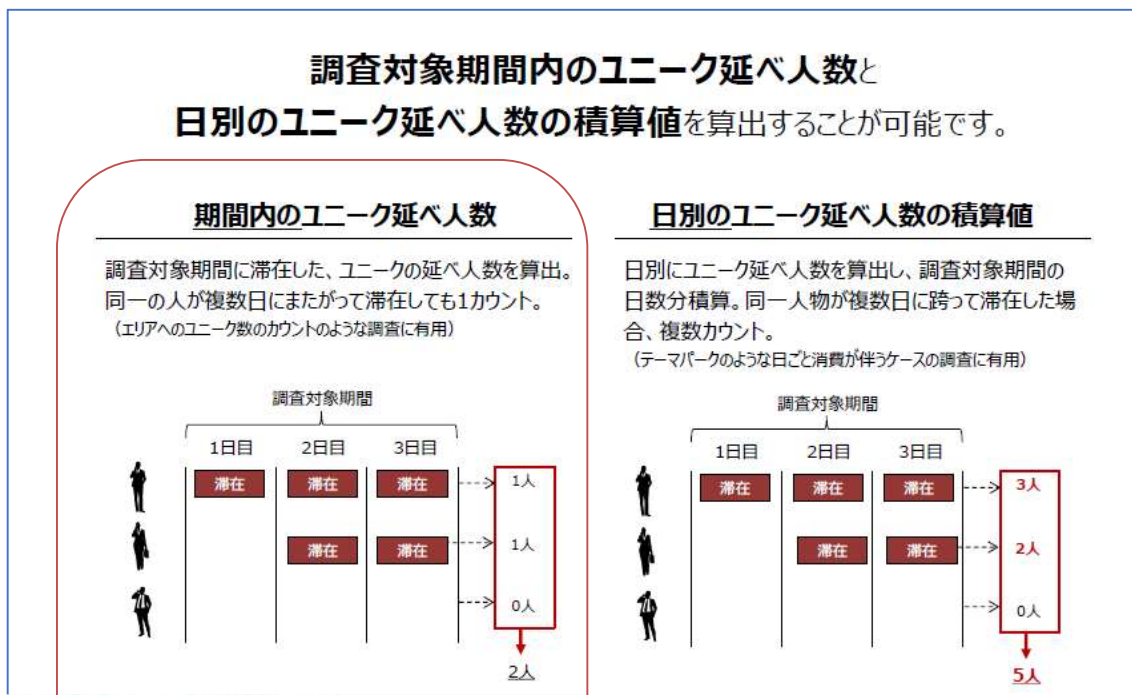


出典：(株)ナビタイムジャパン

1. インバウンドビッグデータについて

■ 2つのビッグデータに共通する仕様

- ・滞在人口は、期間内のユニーク延べ人数となる。
- ・日別のユニーク延べ人数の積算値を用いていないことから、滞在人口が低く出る傾向がある点に留意が必要。



出典: (株)ドコモ・インサイトマーケティング

今回のドコモのモバイル空間統計(R)、ナビタイムとも、期間内のユニーク延べ人数となっている。

観光では、来館者などの延べ人数で日別に計上されるものがあり、大きくなる傾向がある。

2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

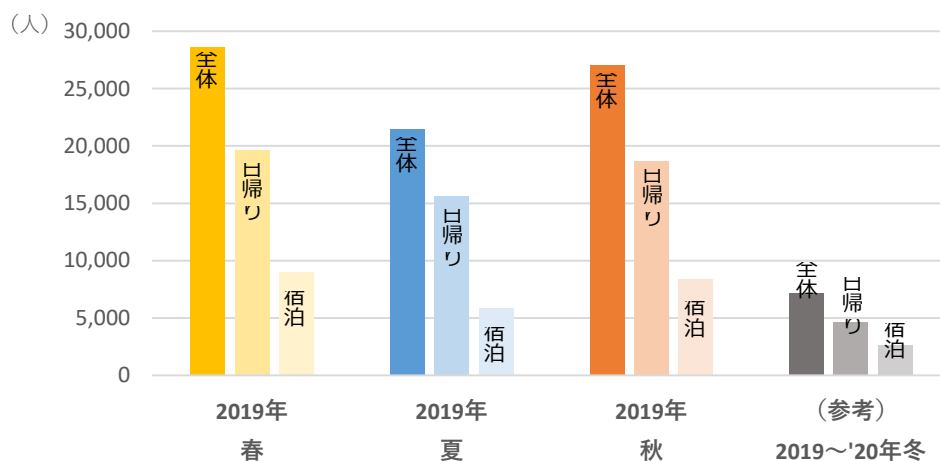
モバイル空間統計 (R)

(1) 旅行客数（総数）と日帰り客数、宿泊客数

- ・ 瀬戸芸2019の会期中に直島を訪れた訪日外国人旅行者の総数は、1シーズンあたり約2万人～3万人となっている。
- ・ 会期別では、春、夏、秋のうち、春会期が約2万8千人と、最も多い。
- ・ うち宿泊客数は、春、夏、秋の合計で約2万3千人となっており、旅行客数全体に占める宿泊者数の割合は約30%となっている。
- ・ 会期外の冬における旅行客数は約7千人であり、会期中シーズンの1/3～1/4程度と少ないことが分かる。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者（旅行客数、日帰り客、宿泊客）

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 合計	(人) (参考) 2019～'20年冬
旅行客数	28,639	21,488	27,081	77,208	7,198
うち日帰り客数	19,674	15,640	18,713	54,027	4,597
うち宿泊客数	8,965	5,848	8,368	23,181	2,601



旅行客数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

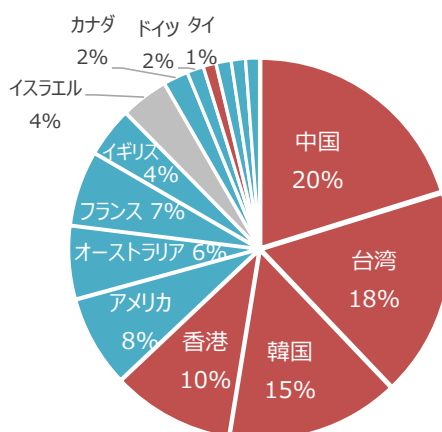
モバイル空間統計 (R)

(2) 国地域別の旅行客数

- 国地域別の旅行客数では、春、夏、秋の3シーズン合計で、中国が最も多く、続いて台湾、韓国、香港と東アジア4地域がトップ4となっている。
- これら東アジア4地域は、高松空港に直行便が就航していたことから（開催当時）、高松空港を利用して直島を訪れた人も多いと推察される。
- 次に、アメリカ、オーストラリア、フランス、イギリスの欧米豪が多くなっている。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者（国地域別、上位15国地域）

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 合計	(人) (参考) 2019~'20年冬
中国	3,222	4,724	6,149	14,095	1,337
台湾	3,069	4,129	5,127	12,325	778
韓国	5,619	3,583	1,056	10,258	1,032
香港	2,015	2,272	2,950	7,237	820
アメリカ	2,119	1,498	1,819	5,436	602
オーストラリア	1,847	743	1,748	4,338	955
フランス	2,537	550	1,383	4,470	178
イギリス	1,160	581	1,227	2,968	241
イスラエル	1,542	151	1,140	2,833	
カナダ	587	303	589	1,479	
ドイツ	459	130	394	983	58
タイ	298	119	344	761	243
オランダ	248	321	334	903	
スイス	358	217	266	841	
スペイン	209	459	166	834	
合計	25,289	19,780	24,692	69,761	6,244



旅行客数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

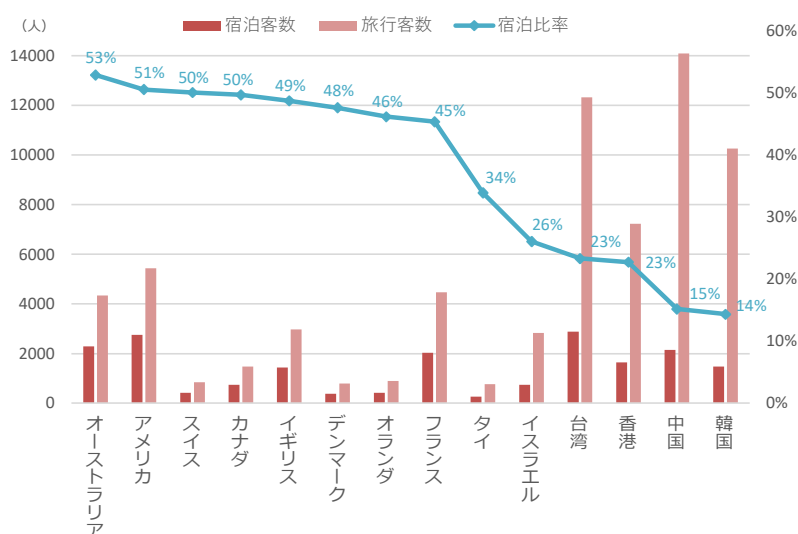
モバイル空間統計 (R)

(3) 国地域別の宿泊客数及び宿泊比率

- 国地域別の宿泊客数は、春、夏、秋の3シーズン合計で、台湾が最も多く、続いてアメリカ、オーストラリアが2位、3位となっている。
- 一方で、旅行客数に占める宿泊者数の割合をみると、オーストラリアが53%と最も高く、続いてアメリカ51%、カナダとスイスが50%と、欧米豪の宿泊比率が高い。
- 直島を訪れる訪日外国人の総数では東アジアが多い一方で、宿泊する比率では欧米豪の方が高いことが分かる。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者（国地域別の宿泊客数、上位14国地域）

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 合計	(参考) 2019~'20年冬	宿泊比率
台湾	740	821	1,314	2,875	211	23%
アメリカ	1,076	818	854	2,748	391	51%
オーストラリア	890	405	1,000	2,295	587	53%
中国	446	804	891	2,141	250	15%
フランス	1,096	224	708	2,028	95	45%
香港	479	403	763	1,645	96	23%
韓国	646	654	172	1,472	132	14%
イギリス	617	185	644	1,446	150	49%
イスラエル	445		293	738		26%
カナダ	356	149	230	735		50%
スイス	163	104	154	421		50%
オランダ	123	142	152	417		46%
デンマーク	160	150	70	380		48%
タイ	102		156	258	88	34%
合計	7,565	4,859	7,482	19,906	2,000	



旅行客数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

2. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

モバイル空間統計 (R)

(4) 国地域別の平均滞在日数

- 国地域別の平均滞在日数を、下記の定義により算出した。

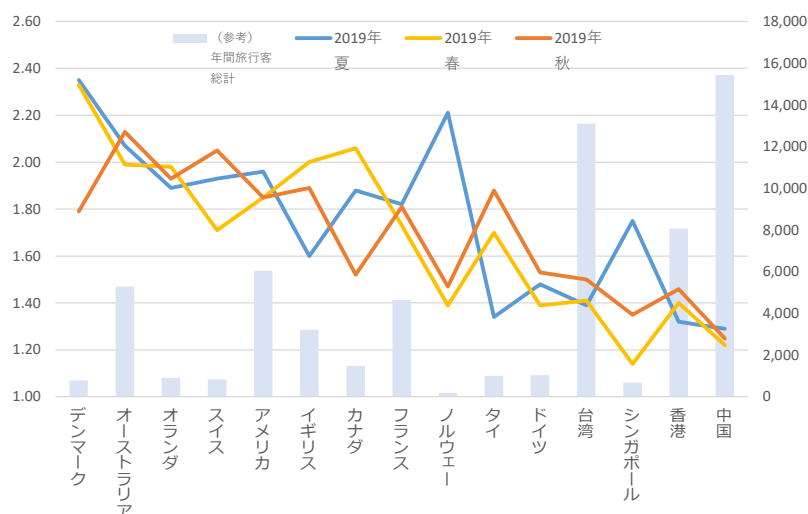
平均滞在日数の定義：日別のユニーク延べ人数 ÷ 期間内のユニーク延べ人数

- その結果、欧米豪の方がアジアよりも平均滞在日数が高いことが分かる。
- 2-(3)において欧米豪の宿泊比率が高いことに関連し、滞在期間についてもアジアより欧米豪の旅行者の方が相対的に長いと言える。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者（国地域別の平均滞在日数、上位15国地域）

(日)

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 平均	(参考) 年間旅行者 総計
デンマーク	2.33	2.35	1.79	2.16	798
オーストラリア	1.99	2.07	2.13	2.06	5,293
オランダ	1.98	1.89	1.93	1.93	903
スイス	1.71	1.93	2.05	1.90	841
アメリカ	1.85	1.96	1.85	1.89	6,038
イギリス	2.00	1.60	1.89	1.83	3,209
カナダ	2.06	1.88	1.52	1.82	1,479
フランス	1.73	1.82	1.81	1.79	4,648
ノルウェー	1.39	2.21	1.47	1.69	185
タイ	1.70	1.34	1.88	1.64	1,004
ドイツ	1.39	1.48	1.53	1.47	1,041
台湾	1.41	1.39	1.50	1.43	13,103
シンガポール	1.14	1.75	1.35	1.41	684
香港	1.40	1.32	1.46	1.39	8,057
中国	1.22	1.29	1.25	1.25	15,432



旅行者数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行者数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング/モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

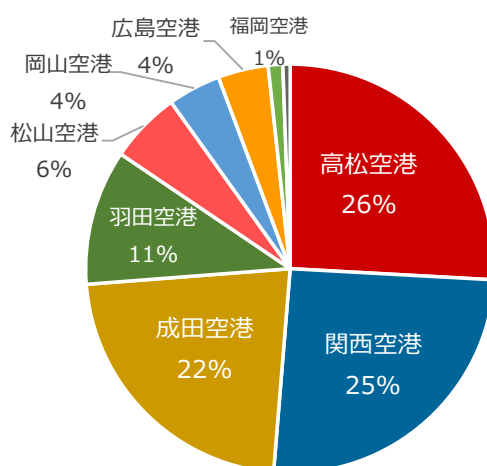
モバイル空間統計 (R)

(1) 入国空港

- 直島を訪れた訪日外国人旅行者が入国時に利用した空港は、高松空港が26%、関西空港が25%と、これら2つの空港で全体の過半を占める。
- 次いで成田空港22%、羽田空港11%となっており、首都圏の空港からは新幹線や国内線を利用して直島まで移動する人が多いと推察される。
- 松山空港、岡山空港、広島空港の瀬戸内圏の空港から入国した人も数%ずつ存在する。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の入国空港

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 合計	(人) (参考) 2019~'20年 冬
高松空港	7,012	6,359	6,219	19,590	2,334
関西空港	6,560	5,377	7,308	19,245	1,770
成田空港	7,326	3,882	5,831	17,039	1,512
羽田空港	3,451	1,860	2,779	8,090	705
松山空港	1,573	1,135	1,565	4,273	
岡山空港	916	1,123	1,129	3,168	352
広島空港	871	966	1,181	3,018	
福岡空港	259	252	363	874	119
中部国際空港	103	143	178	424	67
広島			157	157	



旅行客数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2~5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

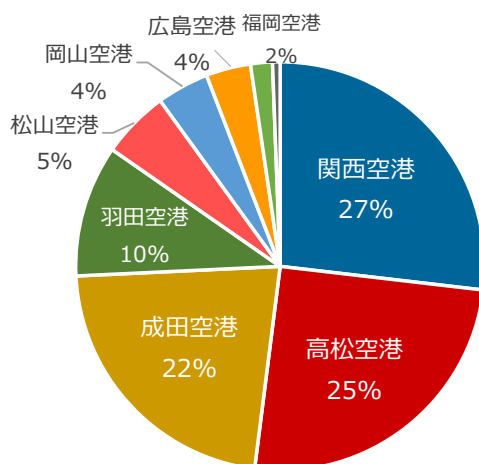
モバイル空間統計 (R)

(2) 出国空港

- 直島を訪れた訪日外国人旅行者が出国時に利用した空港は、関西空港が27%、高松空港が25%と、入国時の空港と僅かな差で順位が入れ替わるものの、これら2つの空港で全体の過半を占める点は同様である。
- 次いで成田空港22%、羽田空港10%となっている。
- 松山空港、岡山空港、広島空港の瀬戸内圏の空港から出国した人も数%ずつ存在する。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の出国空港

	2019年 春	2019年 夏	2019年 秋	春,夏,秋 合計	(人) (参考) 2019~'20年 冬
関西空港	7,179	5,533	7,683	20,395	1,945
高松空港	6,831	6,212	6,036	19,079	2,202
成田空港	7,084	4,039	5,759	16,882	1,539
羽田空港	3,295	1,879	2,722	7,896	706
松山空港	1,574	1,113	1,381	4,068	
岡山空港	885	985	1,266	3,136	351
広島空港	757	818	1,109	2,684	
福岡空港	430	325	547	1,302	83
中部国際空港	129	196	134	459	
那覇空港			63	63	



旅行客数： 時間区分なく2時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5時（深夜帯）に2時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず1人と集計)

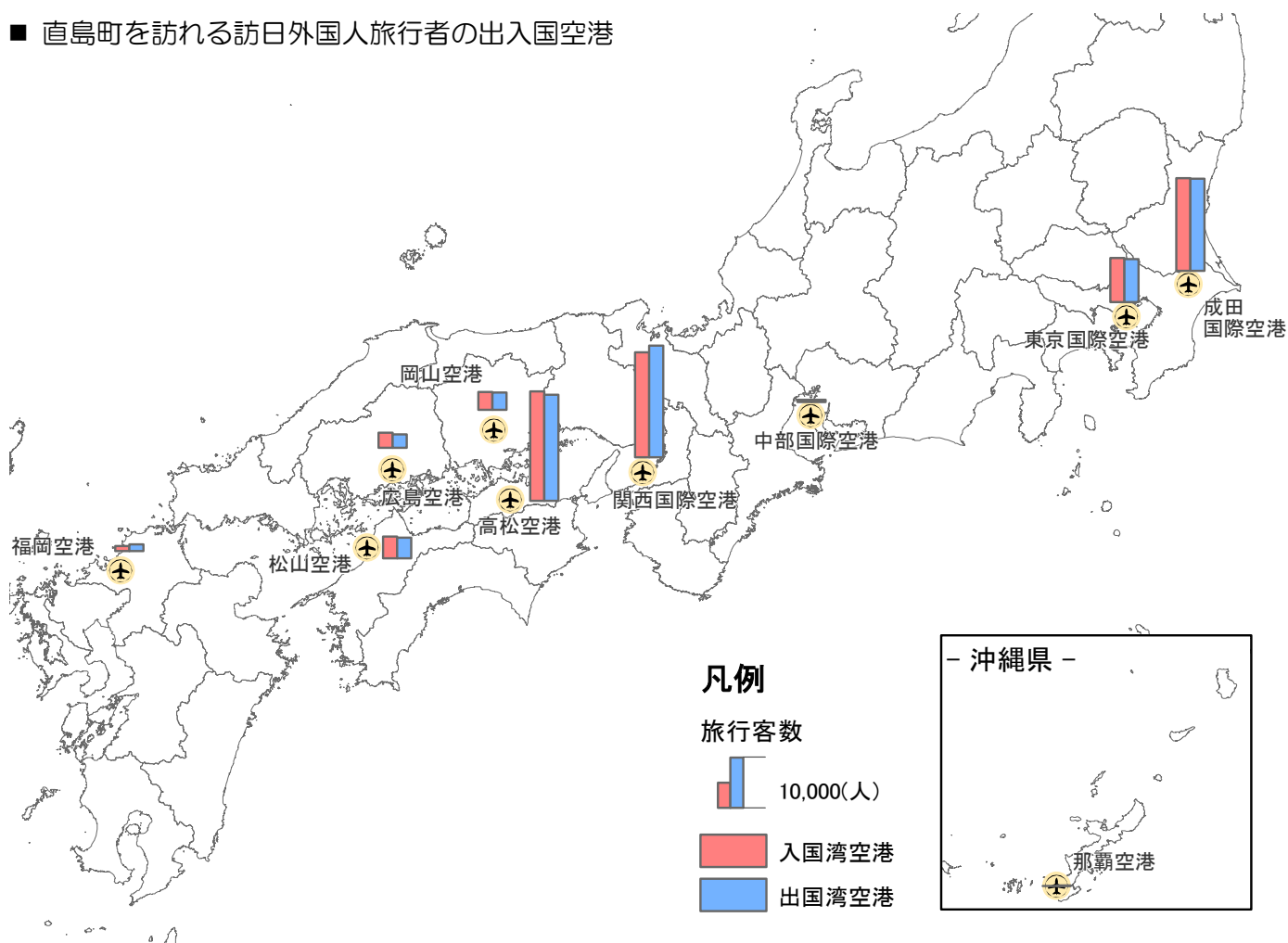
データ提供元： (株) ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

モバイル空間統計 (R)

(3) 出入国空港 (マップ)

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の出入国空港



※
成田国際空港: 成田空港
東京国際空港: 羽田空港
関西国際空港: 関西空港

データ提供元: (株) ドコモ・インサイトマーケティング/モバイル空間統計
モバイル空間統計は株式会社NTTドコモの登録商標です。
出典: ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

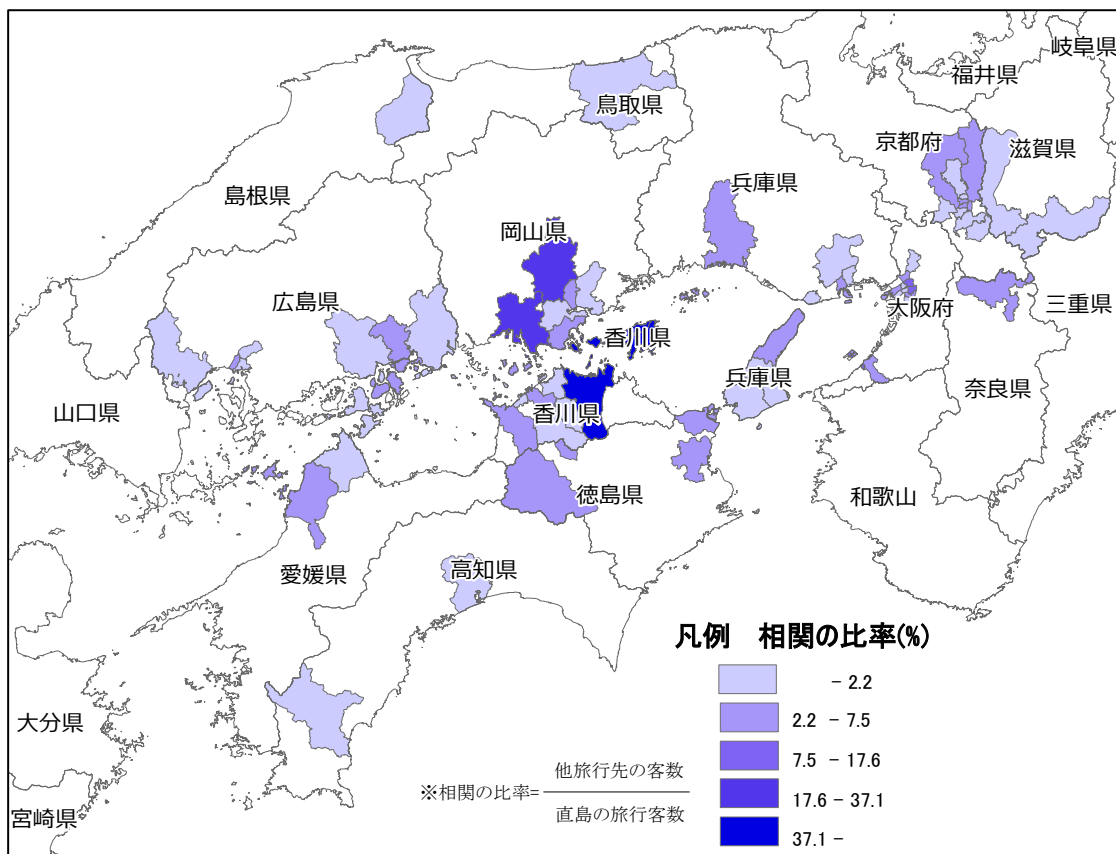
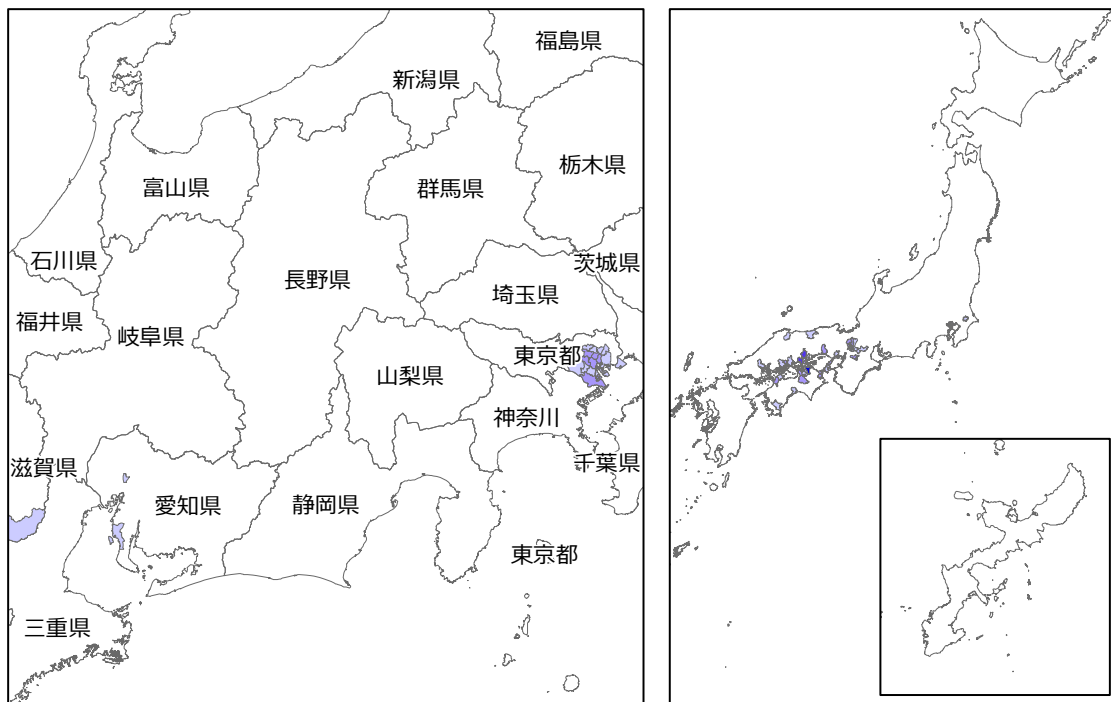
3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

モバイル空間統計 (R)

(4) 直島以外の他訪問先【東アジア】

- ・ 東アジアの旅行者は、直島以外では四国内や瀬戸内、関西エリアの主要都市を訪れている。
- ・ また、山陰地域にも足を伸ばしている人もいることが分かる。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の他訪問先（韓国、中国、台湾、香港）



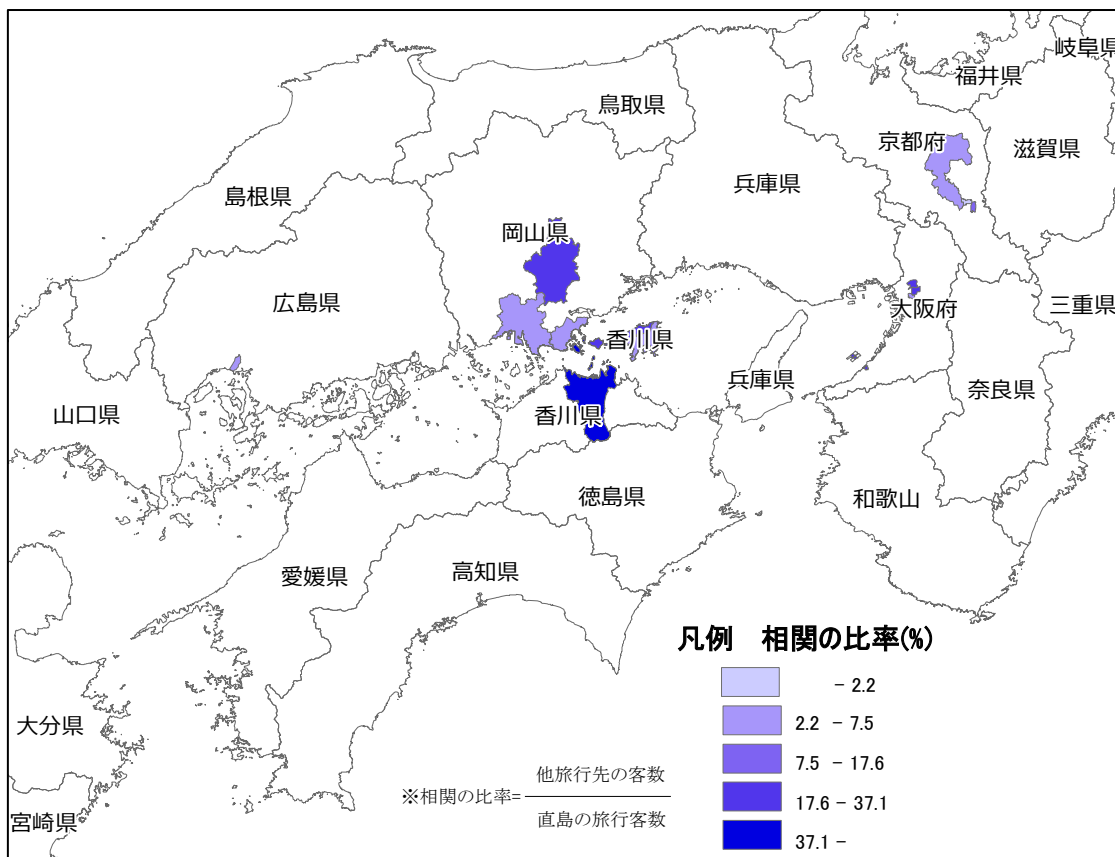
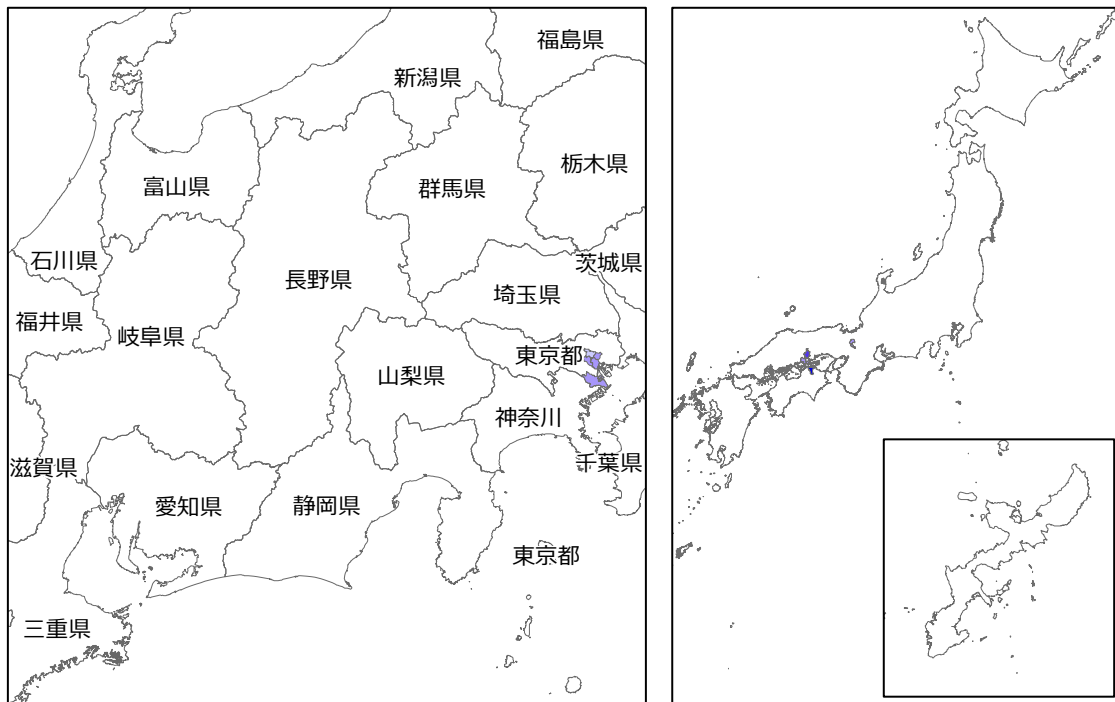
3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

モバイル空間統計 (R)

(5) 直島以外の他訪問先【東南アジア】

- ・ 東南アジアの旅行者は、直島以外では香川、岡山と大阪、京都、東京にしか訪れていない。
- ・ 東アジアと比べると、ほとんど周遊していないことが分かる。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の他訪問先（タイ、シンガポール、インドネシア）



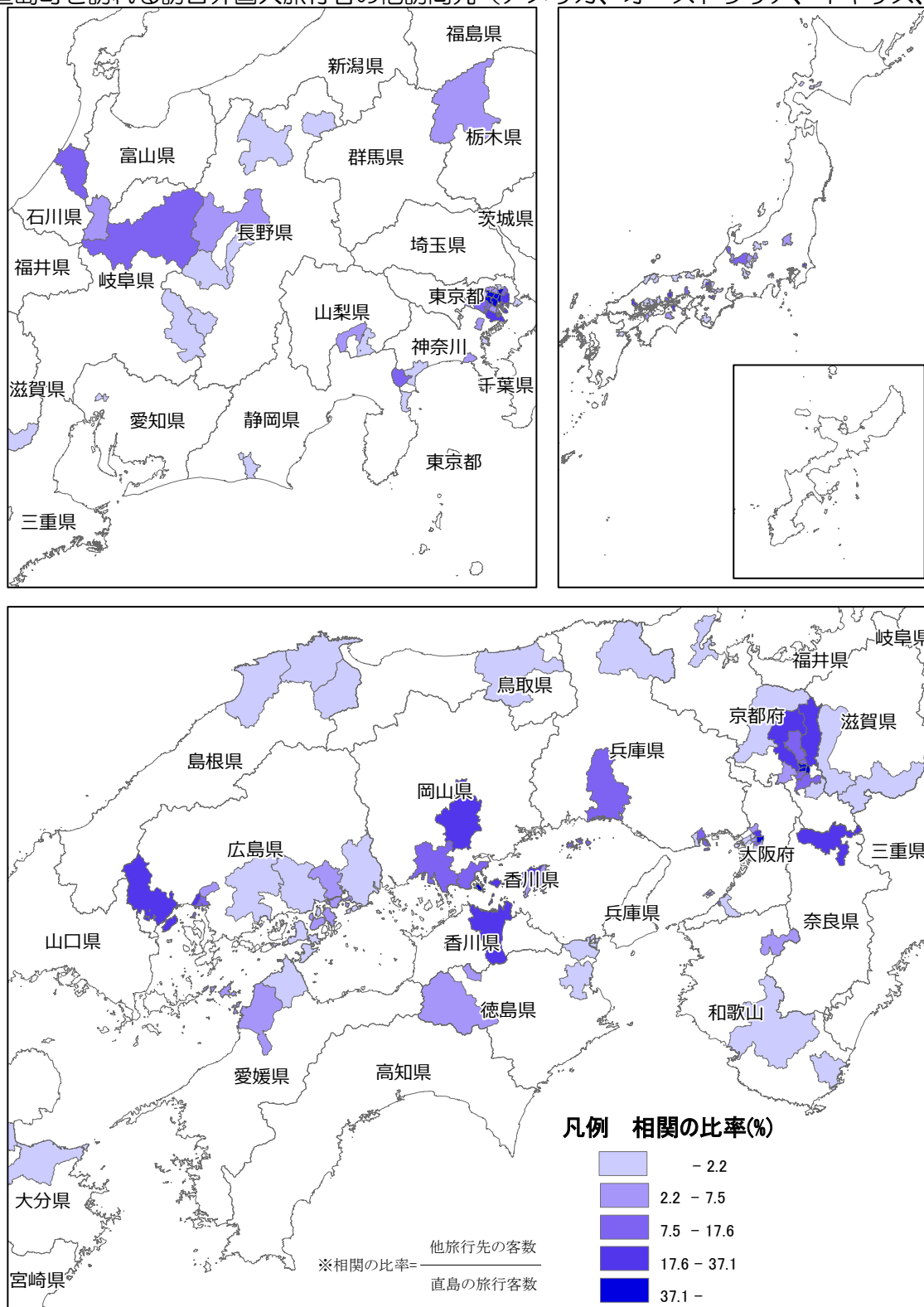
3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

モバイル空間統計 (R)

(6) 直島以外の他訪問先【欧米豪】

- ・ 欧米豪の旅行者は、直島以外でも、四国や瀬戸内エリアにとどまらず、関西、北陸、中部、関東地方まで幅広く周遊している。
- ・ 一方で、東アジアと比べると、四国内の周遊が少ない。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の他訪問先（アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランス）



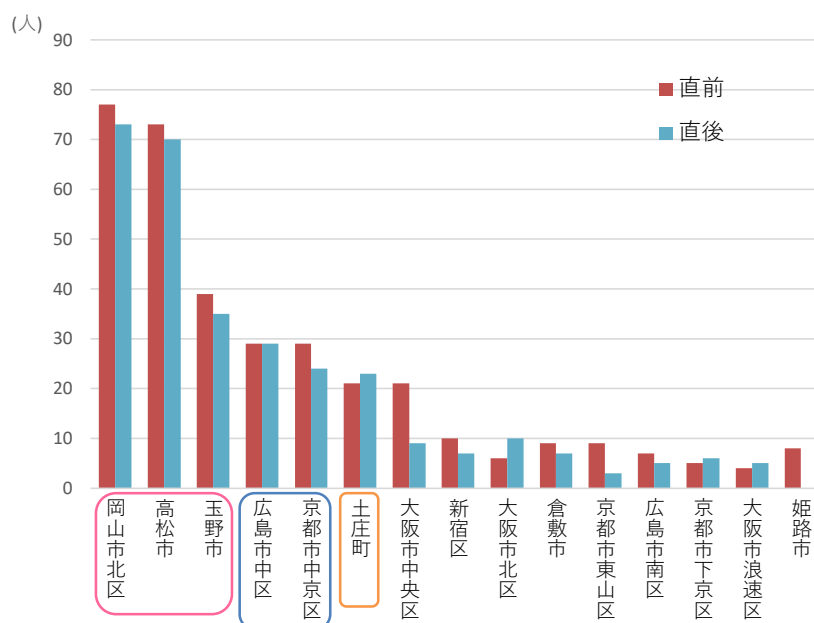
3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

ナビタイムジャパン
インバウンドGPSデータ

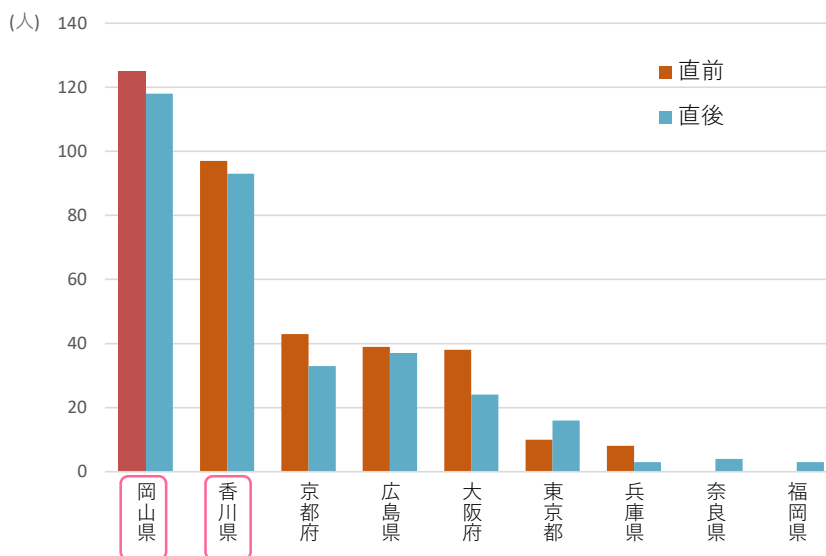
(7) 直島を訪れる直前と直後の他滞在地

- 直島を訪れる直前、直後の滞在地では、市町村別では岡山市北区と高松市がほぼ同数となっている。玉野市はフェリーを利用する際に滞在する人が多いと考えられる。
- 広島市や京都市の主要観光地に次いで、土庄町を訪れる人も一定程度存在し、瀬戸内の島を周遊していると言える。
- 県別では岡山県が最も多く、香川県は2番目となっている。続いて、京都府、広島県、大阪府となっている。

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の直前直後の滞在地【市町村別】



■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の直前直後の滞在地【都道府県別】



データ提供元：(株) ナビタイムジャパン

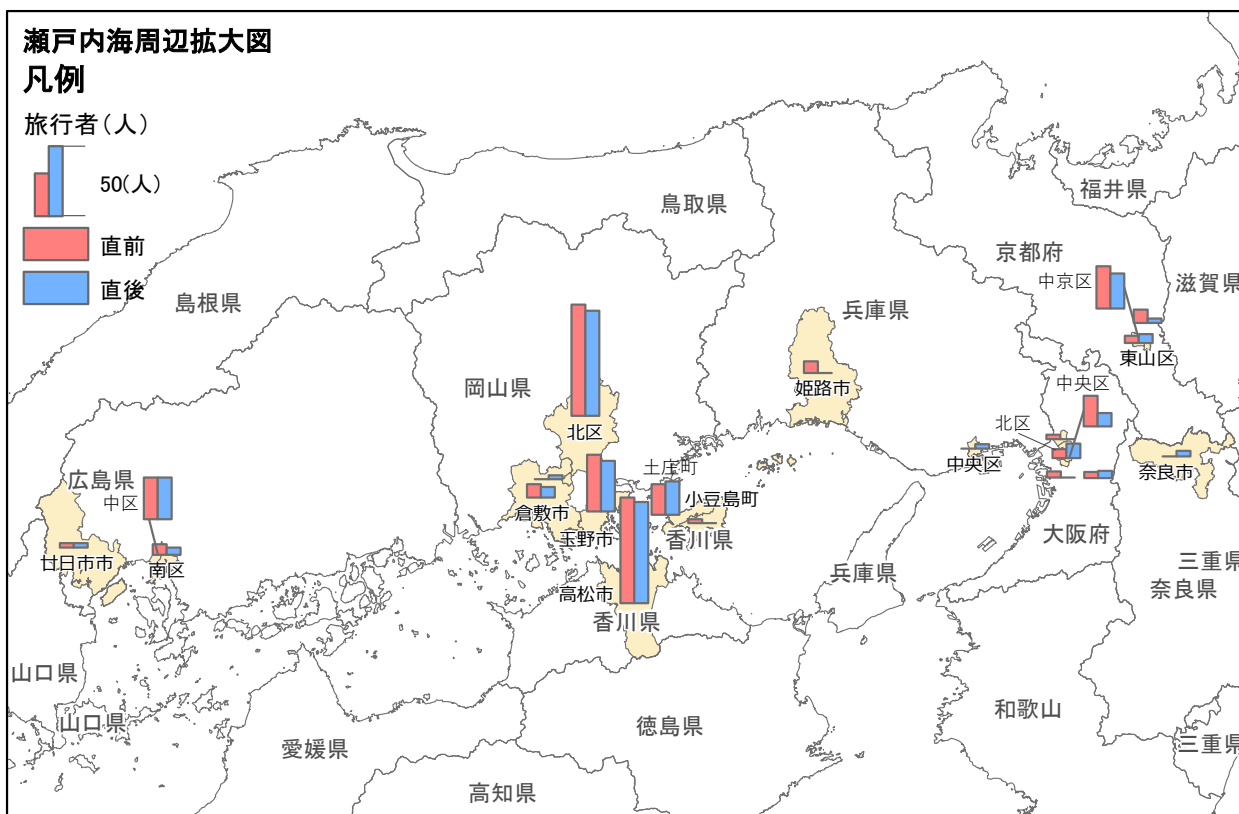
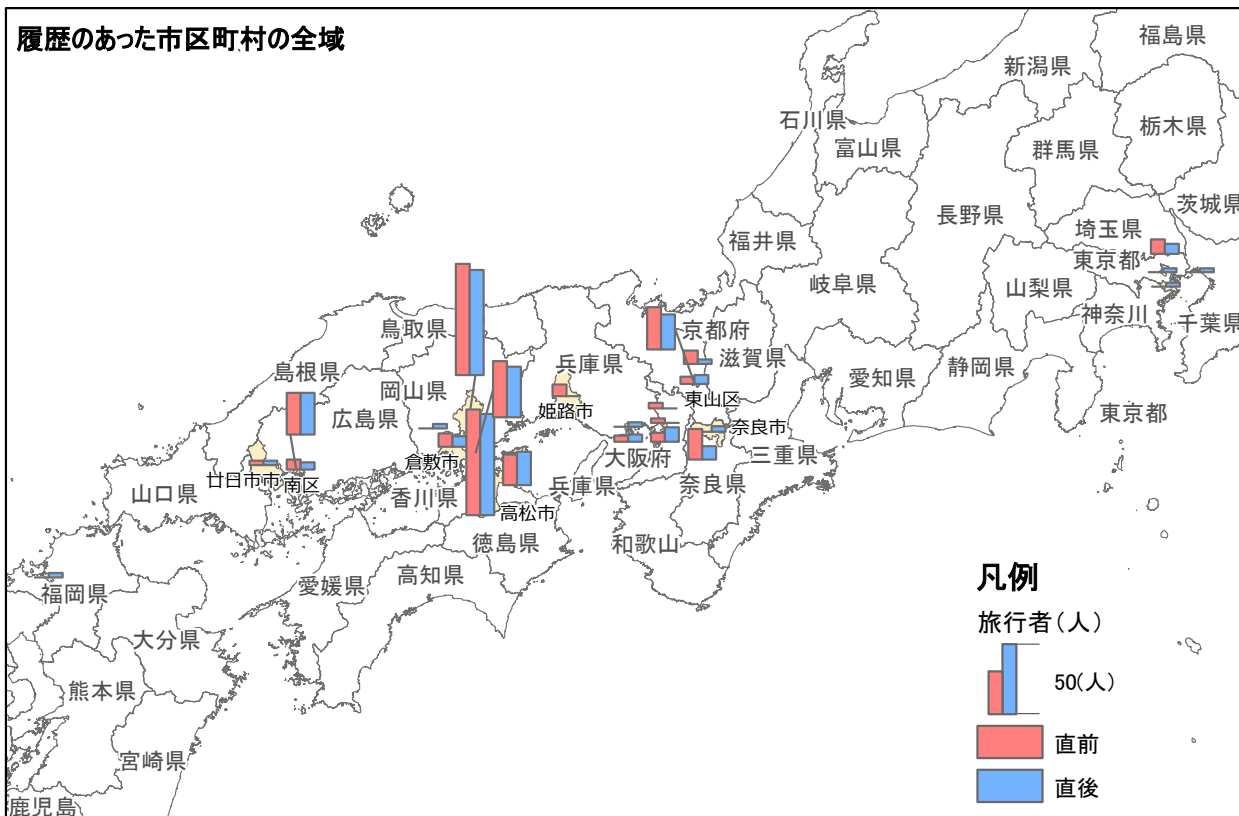
※ナビタイムジャパン インバウンドGPSデータに関しても、滞在の定義は、2時間以上としている
(モバイル空間統計 (R) と整合を図ったカスタム集計とするため)

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

(8) 直前と直後の他滞在地 (マップ)

■ 直島町を訪れる訪日外国人旅行者の直前直後の滞在地【市町村別】

ナビタイムジャパン
インバウンドGPSデータ



データ提供元：(株)ナビタイムジャパン

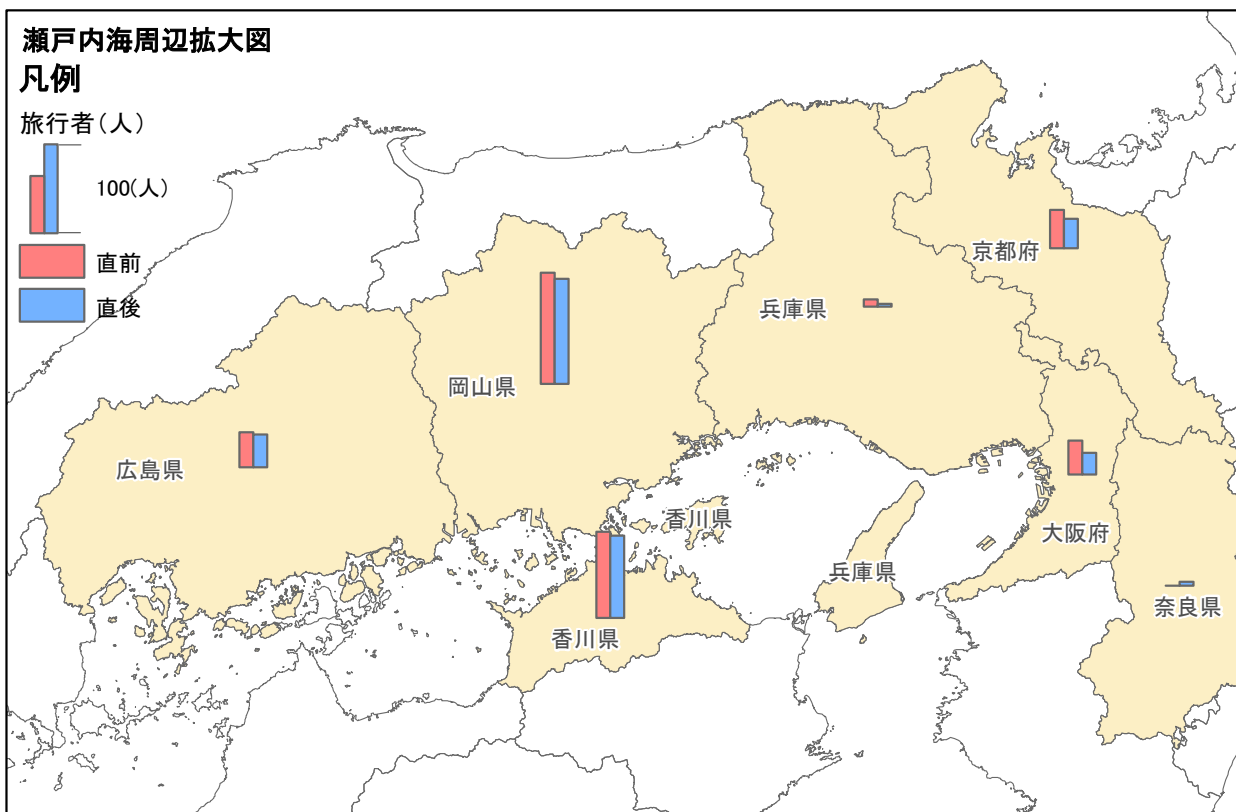
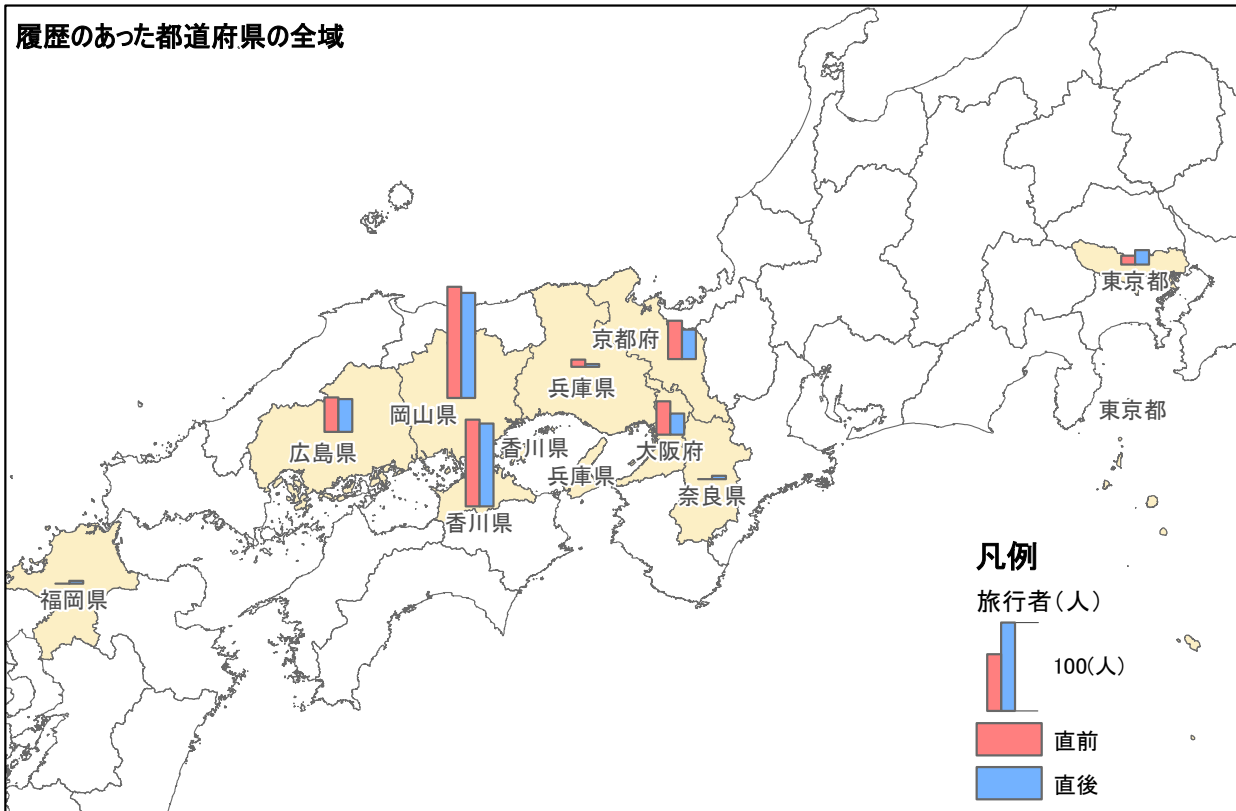
出典：ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

3. 直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

ナビタイムジャパン
インバウンドGPSデータ

(9) 直前と直後の他滞在地（マップ）

■ 直島を訪れる訪日外国人旅行者の直前直後の滞在地【都道府県別】



データ提供元：(株)ナビタイムジャパン

出典：ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

4. 調査結果を踏まえて

～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、
面的な拡がりによる周遊を促す～

4. 調査結果を踏まえて

～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、面的な拡がりによる周遊を促す～

1. 今次調査の意義

DBJ四国支店は、これまで四国地域のインバウンドに関する調査を継続して実施してきた（末尾参照）。

その内容は、当行地域調査部および（公財）日本交通公社が毎年実施している「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査」のアンケート結果をもとに作成している調査に加え、新型コロナや海外富裕層など、時流に応じたテーマを取り上げた調査もあり、多様なラインナップとなっている。

2019年8月には、「東アジア3地域の瀬戸内国際芸術祭に関する意向調査～来訪者の関心を「瀬戸芸」から「四国」へ広げ、地域経済効果を高める～」と題し、瀬戸芸をテーマとした調査も公表している。その際は、台湾、香港、韓国の3地域の日本好きな消費者を対象に、瀬戸芸についてオンラインアンケート調査を実施し、分析結果を取り纏めた。

今回、瀬戸芸をテーマとした調査としては上記に続き2回目となるが、インバウンドビッグデータを取得し、その実態に迫るという点では、これまでの調査にはなかった新たな試みとなる。

瀬戸芸2019の開催期間中に直島を訪れた訪日外国人旅行者が「どこから来て、どこに向かうのか？」や「どこを周遊しているのか？」といった、地域の多くの方が抱えている疑問に対し、すべてがつぶさに明らかになったとは言えないものの、アンケートによる意向調査とは違った実際の動態ビッグデータを用いた点で、相応に説得力のある結果になったのではないかと考える。

今次調査の分析結果のポイントを整理した上で、今後の四国地域におけるインバウンド施策に向けた提言を行うこととする。

2. 分析結果のポイント

直島を訪れる訪日外国人旅行者の属性

（1）会期中の1シーズンあたりの旅行客数（総数）は、会期外の約3～4倍になる

会期中の1シーズンあたり旅行客数は2～3万人であり、会期外の約7千人と比較すると、約3～4倍に増加することが分かった。もともと観光地として知名度の高い直島であるが、瀬戸芸の訴求力が如何に高いかということが改めて分かる結果である。

（2）旅行客数（総数）は、東アジア4地域が多い

春、夏、秋の3会期合計の旅行客数は、中国が最も多く、続いて台湾、韓国、香港と東アジア4地域が上位を占める。これら4地域は、2019年当時に高松空港との直行便が就航していた都市であり、直行便の効果が多分にあると考えられる。

（3）宿泊している人の割合は、欧米豪が高い

直島を訪れた人のうち、宿泊した人の割合では、オーストラリア、アメリカ、カナダなどの欧米豪が50%を超え、高い宿泊比率となっている。欧米豪の旅行者は直島を訪れて、そのまま宿泊する傾向が高いと言える。

（4）直島での滞在日数は、欧米豪が長い

欧米豪の宿泊比率が高いことにも関連し、直島での滞在日数を試算したところ、アジアより欧米豪の方が相対的に長い。欧米豪の旅行者は、直島に来た際に比較的ゆっくり島内に滞在する人が多いと言える。

4. 調査結果を踏まえて

～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、面的な拡がりによる周遊を促す～

直島を訪れる訪日外国人旅行者の動態

（１）出入国空港は、高松空港と関西空港で過半を占める

入国時、出国時とも、高松空港と関西空港を利用した人がほぼ同数となっており、これら2空港の利用者で50%を超える。成田空港や羽田空港を利用する旅行者は、新幹線や国内線を利用して直島との間を移動するケースが多いと考えられる。

（２）東アジアの旅行者は、直島の他に四国内や瀬戸内、関西圏の主要都市を周遊している

東アジアの旅行者は、直島以外では四国四県の主要観光地を中心に四国内での周遊が確認できるものの、各県の中心部以外にはあまり訪れていない。また、兵庫、広島などの瀬戸内エリアに加え、山陰や関西エリアとの関連も認められ、直島を中心とした周遊となっている。

（３）東南アジアの旅行者は、直島の他は香川、岡山や大阪、京都、東京しか訪れていない

東南アジアの旅行者は、フェリーを利用する際に滞在したと思われる香川や岡山の他は、大阪、京都、東京をピンポイントでしか訪れておらず、大阪や東京が空港利用時の滞在であると捉えると、ほぼ他の地域を周遊していないと言える。

（４）欧米豪の旅行者は、直島の他に四国や瀬戸内に留まらず本州を幅広く周遊している

欧米豪の旅行者は、四国や瀬戸内エリアにとどまらず、関西、北陸、中部、関東地方まで、本州を幅広く周遊している。一方で、四国内の周遊は東アジアと比べると少ないことが分かる。他の地域に流れてしまう旅行者の足を、如何にして四国や瀬戸内エリアに滞在してもらうかが課題であると言える。

（５）直前・直後の他滞在地は、県単位では香川県より岡山県の方が多い

- ・ 直島を訪れる直前と直後の他滞在地は、市町村別では岡山市北区と高松市がほぼ同数で多く、次に多い玉野市はフェリーを利用する際に滞在したものと考えられる。
- ・ それらに続いて広島市や京都市も多く、岡山や香川を素通りしてこれら主要観光地へ直接向かう人も多いことが分かる。
- ・ 直前・直後の滞在地が土庄町であるのは、瀬戸内の島を周遊していると言えるが、さほど多くはない。
- ・ 県別では、香川県よりも岡山県の方が多く、「直島には本州側（岡山）から来るか？四国側（高松）から来るか？」との疑問に対しては、今次調査においては本州側の方が多い結果となった。

4. 調査結果を踏まえて

～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、面的な拡がりによる周遊を促す～

3. 今後のインバウンド施策に向けた提言

(1) 瀬戸芸の会期外に集客を分散する

今次調査によって、会期中は会期外の3～4倍の訪日外国人旅行者が直島を訪れることが分かった。瀬戸芸の舞台となっている島の中でも、直島は自然・歴史と現代アートが融合した空間であり、会期外に訪れても十分にアートを味わうことができる場所である。

コロナ前にはオーバーツーリズムが日本各地で顕在化し、瀬戸芸においてもフェリーの混雑等が問題となっていたことを勘案すると、アフターコロナにおける持続可能な観光の在り方を考えた際には、瀬戸芸会期中に集中する旅行者を会期外へ分散する方策も必要となるだろう。その結果、トータルの旅行者が増加するとともに住民の負担も軽減されるサステナブルな好循環が形成されることになれば理想的である。

(2) 多様な宿泊施設の受け皿と質の高いサービスを提供する

直島を訪れる訪日外国人は、総数では東アジアが多い一方で、宿泊比率は欧米豪の方が高いことが分かった。

香川県そして四国地域としての経済効果を高めるためには、直島周辺の島や高松港付近そして県内の宿泊施設の拡充が引き続き求められる。アジアor欧米豪、訪日初心者or訪日リピーター、富裕層or一般層と、選択肢豊かで魅力的な宿泊施設が多くなれば、泊まってみたいと思う旅行者が増え、地域経済効果が高まると期待される。

そして宿泊施設というハード面に加え、サービスというソフト面を磨くことも引き続き欠かせない。地域住民による質の高いガイドやコーディネートにより旅行者と地域との触れ合いが実現し、地域としての魅力がより向上することになるだろう。

(3) 国地域ごとの戦略で四国における滞在を長期化する

✓ 東アジアの旅行者には、四国の主要観光地以外のエリアにも足を延ばしてもらう

東アジアの旅行者は、東南アジアや欧米豪の旅行者と比較すると、四国内での周遊が一定程度は認められるものの、交通アクセスが便利な主要観光地に限られている。

今後は、これまでに訪れたことのない場所にも周遊を促し、滞在日数を延ばす方策が必要であろう。そのためには、アクセシビリティの改善や周遊ルート¹⁾の提案が有効であると考えられる。

✓ 東南アジアの旅行者には、まず四国の認知度を高め周遊することを知ってもらう

東南アジアの旅行者は、直島以外への周遊がほとんどないことが分かった。まずは、直島だけではなく、四国地域に多様な魅力ある場所があることを知ってもらい、訪れてみたいと思ってもらうことが必要であろう。

東アジアと比較すると四国訪問未経験者が多いと考えられることから、まずは各県を代表するような主要な観光地を訪れてもらい、四国を好きになってもらうことによってリピーターを創出することが有効であると考えられる。

✓ 欧米豪の旅行者には、本州に抜けてしまう足を四国に留まらせ長く滞在してもらう

欧米豪の旅行者は、もともと訪日旅行の日数が長いことから、直島を訪れる旅行の際にも幅広く本州内を周遊していることが分かった。四国に滞在せず他のエリアへすぐ移動している人も多いと推察されることから、四国地域での滞在を数日延ばしてもらうことが肝要であろう。

例えば、四国遍路やアドベンチャーツーリズムなど、アートとは違ったコンテンツの組み合わせにより、滞在日数が長くなるとともに満足度も高められることが期待される。

4. 調査結果を踏まえて

～瀬戸内海における縦と横の繋がりを創出し、面的な拡がりによる周遊を促す～

（４）直島と他の島を結ぶ横の繋がりと、直島で本州・四国を結ぶ縦の繋がりを創出する

瀬戸芸は、四国地域はもちろん瀬戸内エリアにおいても、極めて求心力の高いコンテンツであり、これだけ多くの訪日外国人が瀬戸内海に浮かぶ小さな島々を目的に世界中から集まる機会は紛れもなく地域全体にとって絶好のチャンスである。

この好機を最大限に活かすためには、直島を中心とした横の繋がりと縦の繋がりを意識することがポイントであると考えます。

まず、横の繋がりとしては、直島と他の島々や四国・本州との間を結ぶ航路の充実である。現時点では、高松港と宇野港を起点とした航路が中心となっているが、島同士を行き来する便の柔軟性・利便性の向上による“アイランドホッピング”のような旅行スタイルの提案や、クルーズ船の利用による四国内の他拠点や関西圏との結節の強化などが具体的には考えられる。

次に、縦の繋がりとしては、今次調査の対象となった直島を架け橋として、本州（岡山港）と四国（高松港）を結ぶラインの活性化である。冒頭で述べたとおり、四国側の問題意識としては、直島を訪れる場合でも本州からきて四国には上陸せずにそのまま本州へ戻ってしまうという点にあった。ここでは「本州側」「四国側」という意識をいったんリセットし、瀬戸大橋、明石海峡、しまなみ海道経由という3つの橋に加え、直島を経由した航路という4つ目の結節を活かす意識を高めてはどうだろうか。

こうして面的な拡がりを強化した結果、瀬戸内海を中心とした周遊が活性化し、関西や中国地域との連携によって、四国のみで誘客するより、より多くの旅行者が四国にも足を伸ばしてくれるようになることが望ましい。その結果、四国地域での滞在日数の長期化と、経済効果が高まることが期待される。

DBJ四国支店のこれまでの観光レポートにおいて、「2025年の大阪・関西万博と瀬戸芸が同時開催されるタイミングがアフターコロナの四国にとって最初にして最大のチャンスである」と繰り返し述べてきた。

万博を目的に関西を訪れた国内外の旅行者の足を、瀬戸芸をフックとして四国にも呼び込むためには、面的な拡がりを持たせ、周遊を促すことが必要不可欠であろう。

インバウンドが再開し、日本各地がこぞって訪日外国人の誘客に向け動き始めた今、四国や瀬戸内というエリアで捉えた「広域連携」がこれまで以上に重要になると考える。2025年に向け、引き続き地域同士が協力し、広域で取り組むことが求められている。

(参考) DBJ四国支店 インバウンド関連レポート

■ 2022年7月

「訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2021年調査）～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第3回 新型コロナ影響度 特別調査）より～」

■ 2021年10月

「訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2020年調査）～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第2回 新型コロナ影響度 特別調査）より～」

■ 2021年7月

「海外富裕層の訪日旅行市場とwith/afterコロナの四国における可能性
～知的好奇心と消費ポテンシャルの高い本物志向のインバウンド誘致に向けて～」

■ 2020年10月

「【訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査 特別編】
新型コロナに関する緊急インバウンドアンケート
～DBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度 新型コロナ影響度 特別調査）より～」

■ 2020年4月

「東アジア4地域の四国旅行に関する実態調査
～台湾・香港・韓国・中国（上海中心）におけるアンケート調査～」

■ 2020年2月

「訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2019年調査）
～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より～」

■ 2019年8月

「東アジア3地域の瀬戸内国際芸術祭に関する意向調査
～来訪者の関心を「瀬戸芸」から「四国」へ広げ、地域経済効果を高める～」

■ 2019年2月

「訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2018年調査）
～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より～」

■ 2018年6月

「インバウンド客が香川県にもたらす地域経済効果の最大化に向けて
～他県の事例分析を基に考える～」

■ 2018年3月

「訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査（2017年調査）
～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査より～」

以 上

©Development Bank of Japan Inc.2022

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

株式会社日本政策投資銀行 四国支店 企画調査課
Tel:087-861-6676

